

Nostalgic Hero 3月号増刊
2014年3月1日発行

ノスタルジックスピード
オトナのための旧車
モディファイマガジン
Vol.003

Nostalgic SPEED

特集 SPLヘッド、ワークス仕様、インジェクション化 2014年

L型チューニング
再燃!!



旧車モダンモディファイ術

元祖ライトウェイトが面白い!

B110サニークーペGX5 / SR311フェアレディ2000 / KE10カローラ+20VALVE 4A-G型



80's Modify & Tuning

エンジンスワップで楽しむハチマル旧車

KP61 STARLET 4A-G-T

X40 CORONA MARK II 2JZ

AE86 SPRINTER TRUENO 20VALVE 4A-G

EVENT REPORT

Japanese Classic Car Show 2013 / Stance Nation Japan / HOT ROD CUSTOM SHOW 2013

第14回 なかよし走行会 / 第4回 年忘れ走行会

BLOOD IN BLOOD OUT

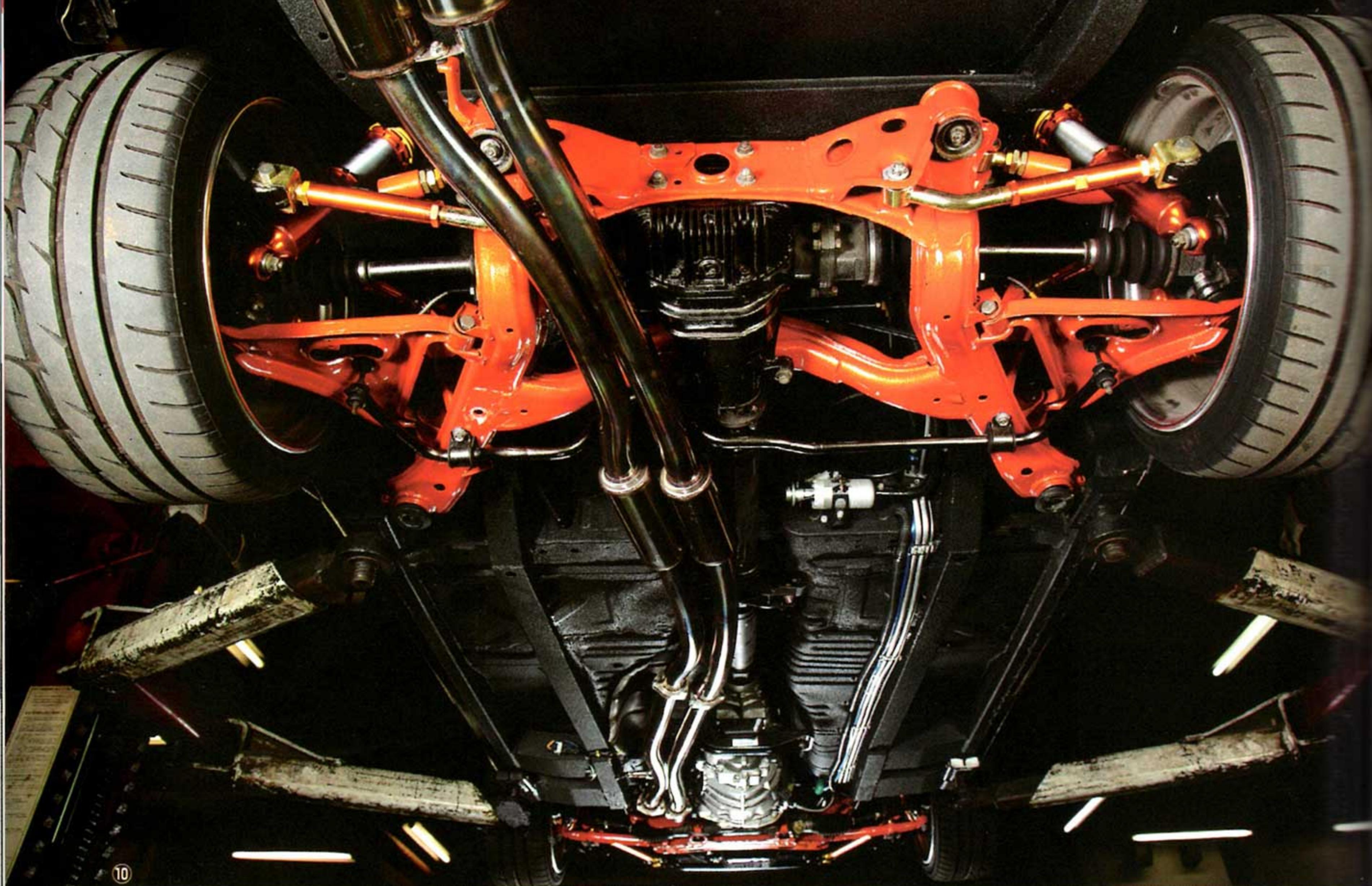
モダンGT-Rの血を継承したスーパー・ケンメリ

スカイラインとは切っても切り離せない、「GT-R」という走りの血筋。
世代を超えたGT-Rの血を、その足に、心臓に、全身にみなぎらせたケンメリがこれだ。

TEXT : TAKAYOSHI SUZUKI / 鈴木貴義 PHOTO : AKIO HIRANO / 平野 陽



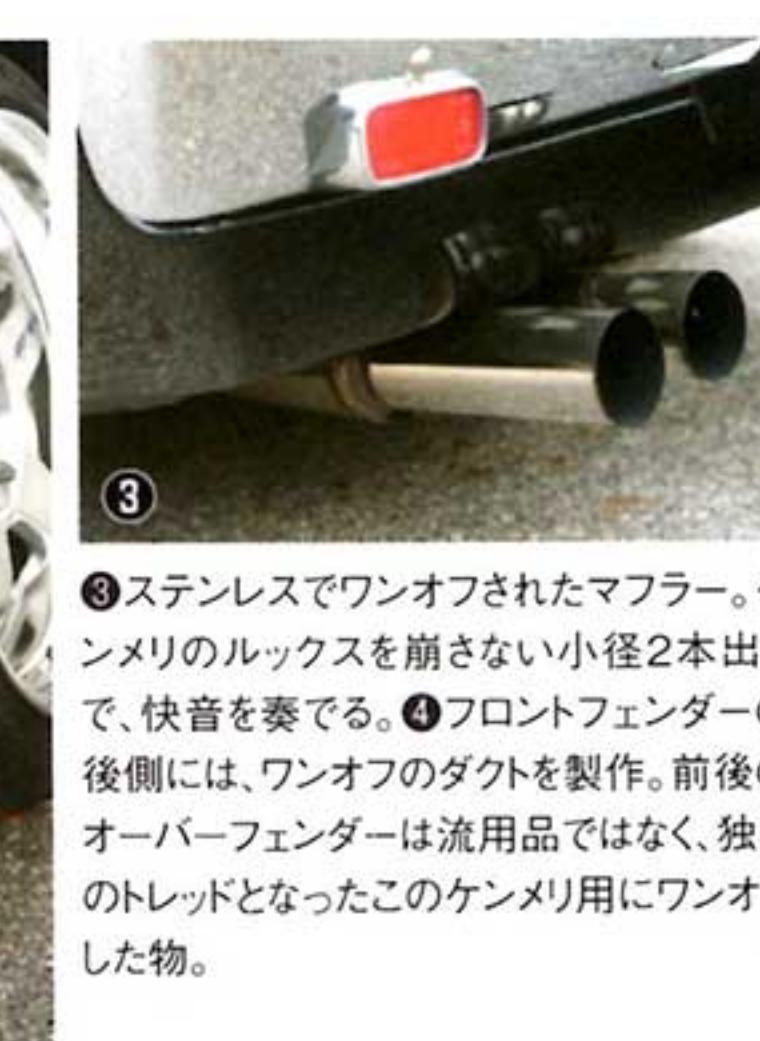
1974 NISSAN SKYLINE HT 2000 GT



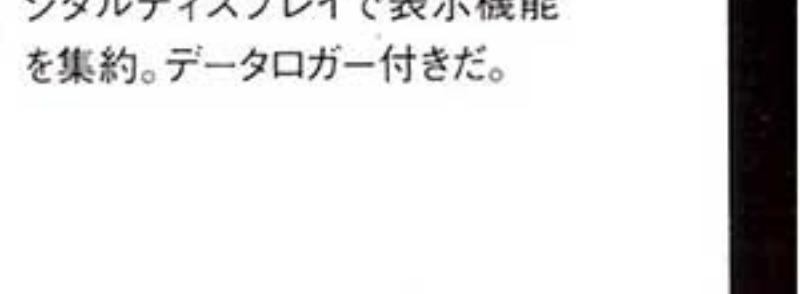
⑩ フロアごとR33スカイラインGT-Rのマルチリンクサスペンションが移植されたリアの足回り。デフもそのまま流用している。⑪フロントの足回りも、RB系エンジンを積む高年式の日産車から移植されたもの。



② ニスモが取り扱っていたRB30型ブロックを使い、そこにRB26型のヘッドを組み合わせたロッキーオートオリジナルのスポーツインジェクション仕様NAユニット。NAのツインカムユニットを積むというのは、ある意味昭和のGT-Rらしい選択といえる。組み合わされるエキマニは等長の6-2集合タイプ。元々はターボエンジンであるRB26型だけに、こうしたNA用等長エキマニとの組み合わせは見た目にも珍しい。エンジンの制御はF-CON Vproで行われ、このオリジナルエンジンで快調に作動させている。③ RB26型ヘッドの良さを生かして、スロットルは6連の独立仕様に、6つの吸気ファンネルが並ぶ様子は、ある意味旧車にも通じるビジュアルだ。この6連スロットルとエキマニのおかげで、エンジンのレスポンスは抜群に良い。L型とはまた違う感触だ。



④ メーター類はレースパックのデジタルディスプレイで表示機能を集約。データロガー付きだ。



⑤ エンジンスワップによって旧車でも簡単にパワーが得られるようになった。今、本当に快適な旧車とは何なのか。そんな問題に対し、エンジンスワップ車両が積極的に製作してきた「ロッキーオート」が出した答えがこのケンメリだ。エンジンに勝るシャシーと足回りを与えるべく、何よりアリアの足回りはR33スカイラインGT-Rのマルチリンクサスをフロントの足回りも同様に移植。フロントの足回りも同様に高年式の日産車から移植され、旧車のボディからは想像できないほどしなやかなサスペンションシステムを持つに至った。

このモダンな足回りがあれば、どんなハイパワーなエンジンでも安心して搭載可能となるわけだが、ロッキーオートではあえてNAユニットをチョイス。とはいえた構成は、RB30型ブロックにRB26型ヘッドを組み合わせた、独自の3リツインカムユニットという凝ったものだ。6連スロットルに手曲げの等長工キマニを組み合わせ、気持ちよく吹け上がるこのエンジンは、パワー感よりも氣

持よさを重視したNAユニットらしい仕上がりで、しっかりとしたシャーシーがあることで、本当の意味で「踏める」マシンとして完成している。

またインテリア各部も、このケンメリから「旧車臭さ」を消し去っている。ダッシュパネルはR33スカイラインの物を丸ごと移植。パワステ、オートエアコンも装備しているほか、前席シートはヒーター付きのレザー張りレカロ。後席にはR35GT-Rからインスパイアし、センタースピーカーまで装備している。ドアを開けた瞬間、ガソリンやオイルのにおいが漂うのではなく、ほのかにレザーが香るというのは、このケンメリのモダンさを象徴するディテールだと見えるだろう。

高年式のエンジンをただ移植するだけではなく、トータルで高年式のシステムを旧車に移植する。これこそが究極の旧車モダンカスタムの姿であるといえるのではないか。

SPECIFICATION

74年式 日産スカイライン・ハードトップ 2000 GT (KGC110)

- エンジン: RB30(ニスモブロック)+RB26DETT型ヘッド
- 吸気系: オリジナルスポーツインジェクション
- 排気系: ワンオフエキマニ/ワンオフステンレスマフラー
- 制御: F-CON V-Pro
- ミッション: R33スカイライン用5速ミッション
- サスペンション: R33スカイラインGT-R用リアマルチリンク移植/オリジナル車高調
- フレーム: R34スカイラインGT-R用フレンボキャリバー+ローター
- ボディ: オリジナルサイドダクト/ワンオフオーバーフェンダー
- シャシー: R33スカイラインフロア移植/フレーム補強
- インテリア: R33スカイラインダッシュボード移植/Racepakデータロガー/HKS A/Fノックアンプ/ナルティティアリング、電動ヒューズボックス/キッカーボード
- ホイール: ワーク・マイスターS1 F:17×8.0JJ R:18×10.0JJ
- タイヤ: プリヂストンPOTENZA RE-11 F:215/40R17 R:255/35R18

SHOP INFORMATION



常に攻めの姿勢で旧車カスタムに挑戦している有名店。今後はエンジンスワップだけでなく、旧車業界を握るがす新たなコンセプトのカスタムカーを続々と送り出していくとのことなので、今後も目が離せない。

ロッキーオート
〒444-086 愛知県岡崎市明大寺町字大坂55番地31
TEL 0564-58-7080 <http://rockyauto.co.jp/>

旧車の延命措置として、もしくはパワーアップの手段として、ここ数年でエンジンスワップという作業は一気にボブラーになった。高年式エンジンへの載せ替えは、信頼性や快適性が増すばかりがパワーアップの恩恵も大きく、旧車を次のステージへと導く新たな扉を開いたと言える。

しかし一方で、エンジンスワップには問題がないわけでもない。それは古い車体に対して、エンジンが勝ちすぎる場合があるからだ。基本設計がそもそも異なる70年代のクルマ、2000ps以上はゆうに発生する現代車のエンジンを搭載することは、ある意味バランスを崩す行為ともいえる。

エンジンスワップによって旧車でも簡単にパワーが得られるようになつた今、本当に快適な旧車とは何なのか。そんな問題に対し、エンジンスワップ車両が積極的に製作してきた「ロッキーオート」が出した答えがこのケンメリだ。エンジンに勝るシャシーと足回りを与えるべく、何よりアリアの足回りはR33スカイラインGT-Rのマルチリンクサスをフロントの足回りも同様に移植。フロントの足回りも同様に高年式の日産車から移植され、旧車のボディからは想像できないほどしなやかなサスペンションシステムを持つに至つた。

このモダンな足回りがあれば、どんなハイパワーなエンジンでも安心して搭載可能となるわけだが、ロッキーオートではあえてNAユニットをチョイス。とはいえた構成は、RB30型ブロックにRB26型ヘッドを組み合わせた、独自の3リツインカムユニットという凝ったものだ。6連スロットルに手曲げの等長工キマニを組み合わせ、気持ちよく吹け上がるこのエンジンは、パワー感よりも氣持よさを重視したNAユニットらしい仕上がりで、しっかりとしたシャーシーがあることで、本当の意味で「踏める」マシンとして完成している。

またインテリア各部も、このケンメリから「旧車臭さ」を消し去っている。ダッシュパネルはR33スカイラインの物を丸ごと移植。パワステ、オートエアコンも装備しているほか、前席シートはヒーター付きのレザー張りレカロ。後席にはR35GT-Rからインスパイアし、センタースピーカーまで装備している。ドアを開けた瞬間、ガソリンやオイルのにおいが漂うのではなく、ほのかにレザーが香るというのは、このケンメリのモダンさを象徴するディテールだと見えるだろう。

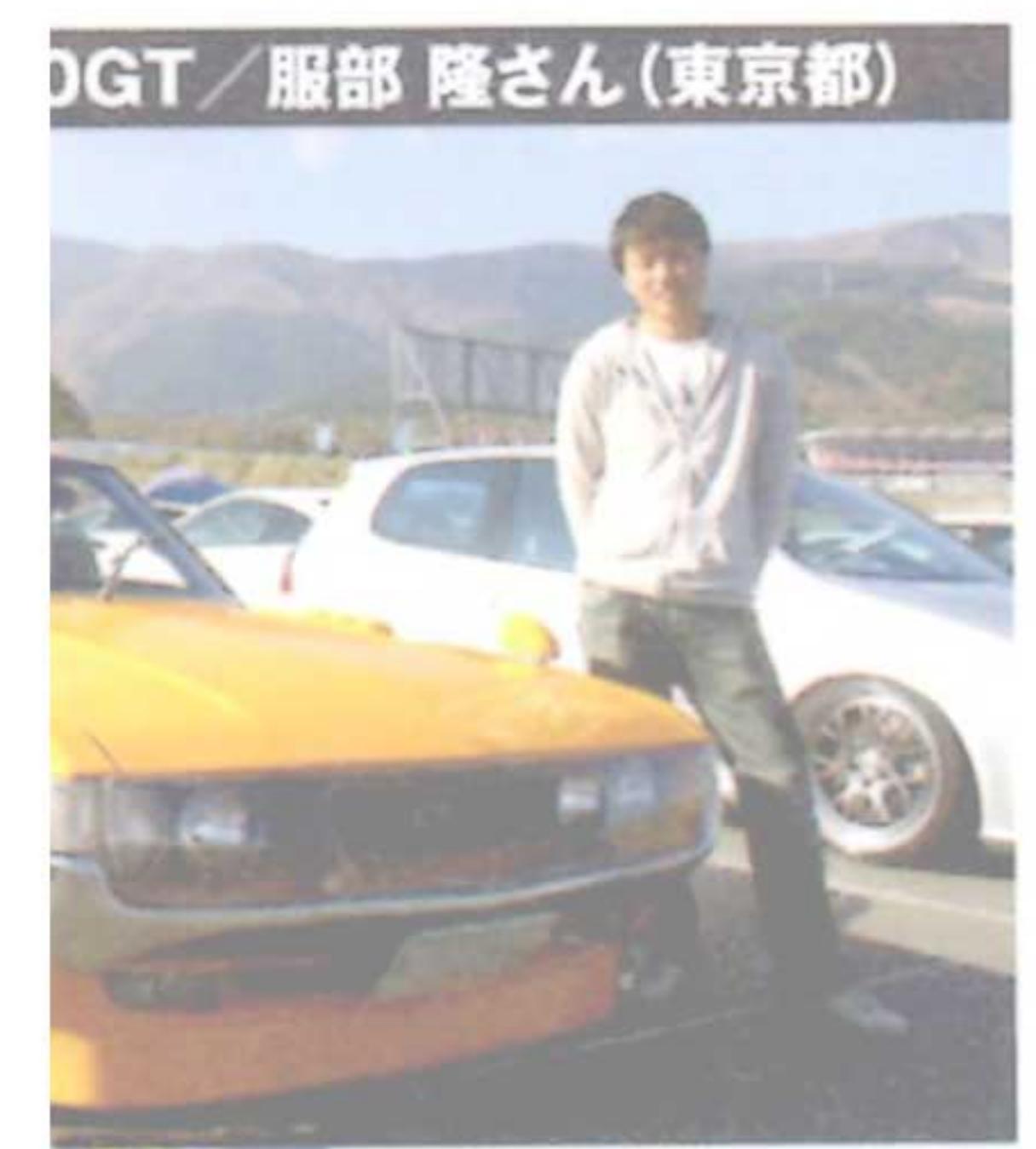


七五三のお参りをすっぽかして来ました」という山田さんは、ノスタルジックスピード賞を受賞。元トラストリ大川さんが製作したソアラに触発され、6M型エンジンにTD06ツインインターチューラーターボを装着。フロント右フェンダーからは、ウェイストデータの排気口が突き出ている。

68年式ブルーバード 1600 2ドアセダン/更井さん(奈良県)

76年式スカイライン HT 2000GT/ロッキーオート(愛知県)

ケンメリにRB30型ブロックとRB26型ヘッドを組み合わせたNA仕様を搭載。足回りもマルチリンク仕様だ。詳細は78ページに。

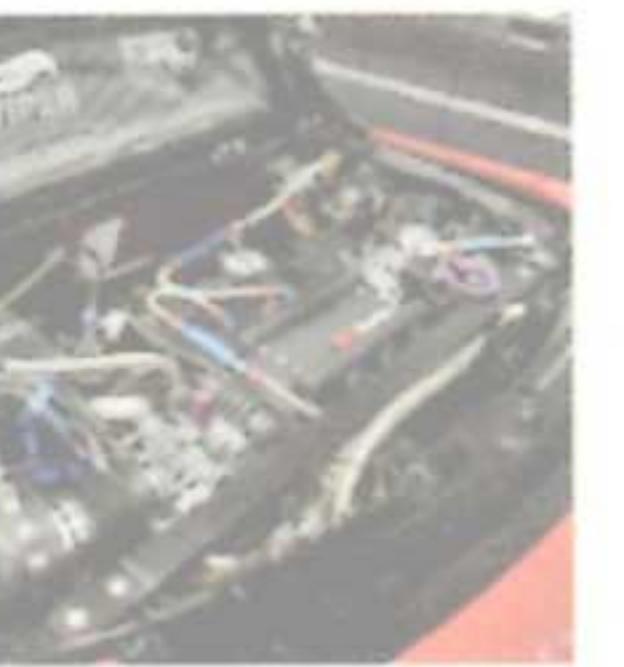


町田さんのセリカと兄弟車のようなLBだが、レーシングジャケット、スポイラー、オーバーフェ



82年式シャルマン/有山陽平さん(奈良県)

「後3JGVW用レート。エンジンはA15 psをたたき出す。



ビレットというテーマを行なった。エンジンのコンピューター化して、リアトレイに載している。



県「ケンオートモー」の福田さんは、和ットロッドをイメージ製作。ホイールはド・ディジーの15インチPCD変換してセッエンジン系はFCRブレターに交換してオフタコ足を装着。

「見た目はノーマルで快適に乗れるようにしたかった」と田中さん。1JZ型エンジンを搭載したボディをバネカットでローダウンしている。

89年式RX-7 GT/佐藤 晶さん(茨城県)

13B型から20B型エンジンに載せ替えて、ダンドラφ51mm、φ50mm等長タコ足、チタンサイドマフラーなどによってパワーアップを図った。

ヘアライン入りペイントボディにロティフォームの17インチを装着した510。フルチューンエンジンは、L型とZ型のいいとこどりで250psを実現。

愛知県岡崎市のロッキーオートは、RB26DE型エンジンを搭載した71年式のカーボンハコスカを展示。ホイールはマイスターCR01の15インチだ。